

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。

また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者

(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名
(ユニット名) **グループホームはるかぜ荒田
5, 6階**

所在地
(県・市町村名) **鹿児島市下荒田2丁目1 - 27**

記入者名
(管理者) **木崎 真由美**

記入日 **平成 19年 4月 1日**

地域密着型サービス評価の自己評価票

(■ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	○	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	実習生やボランティアの受け入れにも積極的である。	○	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で行っている。外部評価の結果は全員に伝わるようにし、改善すべき点は改善計画を立て実施に取り組むようにしている。	○	
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で取り上げた事項について経過報告すると共に意見、要望も受けるようにしている。	○	
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	常に市との連携を図り、運営やサービスについて協議したり相談したりしていききたい。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	機会があるごとに勉強会を開き、理解を深めるようにしている。利用者やご家族への情報提供をしている。	○	
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加したり、勉強会を開いたりし理解を深め虐待が全くないように取り組んでいる。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、重要事項説明を行い、同意を得た上でご契約頂いている。退去時は本人、家族等と十分な相談、聴き取りを行い支援している。	○	退居者によっては病院、施設などを紹介し、本人、ご家族の相談に応じている。
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉やその態度からその思いを察し、日頃より意見や要望を出してもらい、運営の参考にしてている。	○	
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族との面会等を利用したり、電話等にて利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理等について報告を行っている。	○	
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を設け、意見や苦情等を出してもらい運営に反映させている。	○	
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングを月1回行い、職員の意見、要望を聞くように心がけている。管理者が職員の意見や提案を聞く機会を設け、情報を共有し、適切な対応を行っている。	○	
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	すき間のないローテーションで、24時間の支援を行っている。	○	
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職がやむを得ない場合は、利用者への説明等を行い、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	○	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくを進めている	事業所内外での研修に、多くの職員が参加できるように呼びかけ配慮している。研修内容は朝礼等で発表する機会を作っている。	○	
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月始めに、管理者会議の後、全職員ミーティングを実施し、サービスについて検証、確認を行い日々のケアの振り返りをしながら質向上に努めている。	○	
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員間の仲間意識も高まり、何でも語られる環境作りを行っている。マッサージ機等も設置、休憩も交代で取れるようになっている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	健康診断は年一回実施し、職員の健康を維持できるようにしている。運営者は管理者や職員の勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	○	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前の面談時より、本人の思いや不安が聴けるようにし、話をよく聴いて安心してもらい、信頼関係が保てるように努めている。	○	
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族の困っていること、不安に思っていることなどを聴く機会を多く作り、対処できるように心がけている。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際本人と家族のニーズ、思いを第一に考え、信頼関係を築きながらサービスにつなげられるようにしている。	○	
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居時は本人、家族に事業所を見学して頂き、場の雰囲気馴染めるように工夫し、本人家族が納得した上でサービスを利用して頂けるようにしている。	○	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	過去の話を聴いたり、様々な行事の際に、一緒に調理を行い、お互いが和やかに生活できるように場面作りをしている。	○	
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との協力、信頼関係を築き、利用者の日中の様子、出来事、気づいたこと等情報を伝え、家族と思いを共にし、本人を支えていく関係を築いている。	○	
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人とご家族との関係を理解し、誕生会、敬老会、忘年会等行事に参加して頂き、本人とご家族との関係がより良いものになるように支援している。	○	
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に昔からの知人、友人がおり、散歩時に会話をしたり、地域の行事に参加して交流を持つ等利用者一人一人の生活習慣を尊重している。	○	
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	散歩、食器洗い、お茶当番、玄関清掃等を通じて、利用者同士が支えあえるように努めている。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用(契約)が終了されても様々な行事に招待したり、ご家族からの相談に乗ったりし、関係が断ち切れないうりに取り組んでいる。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを通じお互いに信頼関係を築き、利用者が自らの思い、希望等を何でも話せる雰囲気を作り、利用者の思いに気づくように心がけている。	○	
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者本人との会話、ご家族、知人等の来所時にどのような生活をされていたのか聴いて、把握に努めている。	○	
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人一人の生活のリズムを理解し、できること、持っている力を把握するように努めている。	○	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃の関わりの中から、本人の思いやご家族の意向を聞き反映させている。又、カンファレンス等で職員全員の意見を聞き、利用者やご家族の要望と照らし合わせながら、介護計画を作成している。	○	
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間が終了する前に見直しをしたり、状態が変化した際には、検討、見直しをしている。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、介護サービスに基づいて記録をとり、日常の身体状況、血圧、体温、排泄の有無、食事摂取量等を記録し、職員間で情報を共有し、介護の実践、見直しに活かしている。	○	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人やご家族の状況に応じて通院や入院時の送迎など、必要な支援は柔軟に対応し、満足して頂けるよう努力している。	○	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者が安心して地域で暮らして頂けるよう、地域町内会長、民生委員と意見交換する機会を設けている。	○	
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の体調や希望に応じて、訪問理美容サービスを利用して頂いている。又、必要に応じて介護保険外の生活支援に結びつくサービスを受けられよう支援している。	○	
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの参加を呼びかけたが参加して頂けず、協働体制が整っていない。		今後、後見制度が必要と思われる利用者に、地域包括支援センターと協力して利用できるように支援していきたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族が希望するかかりつけ医になっている。基本的にはご家族同行の受診になる旨を説明し、利用契約時に同意を得ているが、不可能な時は職員が代行、支援している。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	医療母体が認知症の人の医療が熱心で適切な指示をしてくれる医師から、治療を受けられるようにしている。	○	
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	常に看護職員を配置しており、毎日利用者の健康管理や変化に応じた支援を行っている。職員が対応に困った際には、Dr. 緊急ホットラインにて支援している。	○	
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には医療機関に情報を提供し、頻繁に職員がお見舞いをしている。又、ご家族や医師と話をする機会を持ち回復状況等について、情報交換しながら速やかな退院支援に結びつけている。	○	
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ご家族、医師、看護師を交えて話し合いを行い、ご家族の気持ちの変化や思いに応えることができるように支援している。	○	
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人の気持ちを大切にしつつご家族と話し合い利用者が安心して最期を過ごして頂けるよう支援している。急変した場合、すぐ対応して頂けるよう医療機関とも密に連絡を取り対応している。	○	
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	今までの生活環境、支援の内容、注意が必要な点についてご家族等より情報を提供して頂き、これまでの暮らしが損なわれないよう支援に心がけている。	○	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日常、職員が利用者に向けて発している言葉の内容、語調等が利用者の誇りを傷つけたり、プライバシーを損ねるものにならないように気をつけている。勉強会、ミーティングの折に日々の関わり方をリーダーが確認し、職員の意識向上を図っている。	○
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	散歩外出のできない雨天時、唱歌、習字、トランプ等利用者の希望を聞きながら行っている。意思表示の困難な方には表情を読み取り、本人の希望や好みを把握できるように取り組んでいる。	○
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日どのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは持っているが、一人一人の体調に配慮しながら、その日、その時の本人の気持ちを尊重して、できるだけ個別性のある支援を行うようにしている。ご家族、職員との会話を楽しみ、買い物や散歩時等、柔軟に対応している。	○
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	着替えは基本的に本人の意向で決めているが、自己決定がしにくい利用者には職員と一緒に考えて本人の気持ちにそった支援を心がけている。又、理美容は訪問サービスを希望に応じて支援している。	○
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の食べたい物を聞いたり、利用者の個々の力を活かせる調理、盛り付け、片付け等を職員と共に行い、同じテーブルを囲んで楽しく食事できるよう雰囲気作りも大切にしている。	○
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一人一人の嗜好物を職員が把握して支援している。10時や15時のおやつの際には、色々な食品、果物等を取り入れ、お菓子作りも一緒に行って楽しんでいる。	○

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	夜間はポータブルトイレを使用する利用者もいるが可能な限り、トイレで排泄できるよう支援している。本人の排泄パターンに応じてトイレ誘導を行っているが、失敗することもあり、安心ショーツや尿取りパットを使用している。失敗した場合でも本人が傷つかないよう、周囲に気づかれない等の対応をしている。	○	
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日の体調を見ながら入浴支援を行っている。入浴を拒む人に対して、言葉かけや対応の工夫、チームプレー等により安心して入浴できるように支援している。足浴が必要な利用者には毎日行っている。	○	
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し生活リズムを整えるよう努めている。一人一人の体調や表情、希望等を考慮してゆっくり休息が取れるように支援している。場合によってはご家族や医師等と相談して睡眠や食事、薬剤等全体的な調整を行っている。	○	
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野で一人一人の力を発揮してもらえるようお願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。外出願望の強い利用者には犬の散歩や買い物を実施して気晴らしの支援をしている。	○	外出する機会を多く作り、季節の移り変わりを肌で感じて頂き、楽しみが持てるよう年間行事に取り組んでいきたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族よりお金を預かり、事業所が管理しておりバザーや木市などに外出した際は、自分で好きな物を買えるようお金を手渡すなどの工夫をしている。利用者一人一人の力や希望に合わせて少額を手にとってもらい安心感や満足感に配慮している。	○	
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には利用者の体調を見ながら、散歩に出かけている。又、歩行困難な利用者は車椅子等を利用してもらい利用者の希望があれば買い物にも車で出かけていたりしている。	○	
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節ごとの催し事(花見、木市、運動会見学、ソーメン流し等)外食したり、お弁当を持って戸外に出かけている。墓参りは本人の思いに添えるよう、ご家族と相談し、実現に向けて支援している。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や友人などに気軽にいつでも電話できるように職員が声かけを行い、利用者の希望に応じて日常的に電話をかけたり、手紙を出したりできるように支援している。	○	
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に訪問しやすいように訪問時間は定めておらず、都合の良い時間等にいつでも訪ねて来て頂けるように配慮している。他の利用者に気兼ねなく過ごしてもらえるようお茶等も用意し、自室でゆっくり過ごして頂けるよう支援している。	○	
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が高齢者の権利擁護や身体拘束に関する勉強会を事業所の中で実施し、職員の共有認識を図っている。ミーティングや毎日の申し送り時にその日のケアを振り返り、自覚しない身体拘束が行われていないか確認している。	○	
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が出て行く気配を感じたら、さりげなく声をかけたり一緒に散歩したり、買い物に行くなどして、安全面に配慮している。利用者一人一人の外出のくせや傾向を把握し、職員の見守りを徹底して日中は玄関の鍵をかけずに自由な暮らしができるよう支援している。	○	
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はフロアに職員が見守り、居室で過ごす利用者には一人一人に応じた声かけを行っている。夜間は数時間ごとに利用者の様子を確認すると共に24時間利用者の安全に配慮している。	○	
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況に照らし合わせながら厳重に保管すべきもの、保管管理が必要なもの、利用者が使う時に必要な物等に分けて管理し、危険をすぐ防ぐ取り組みをしている。	○	
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々のヒヤリハットを記録し、職員の共有認識を図っている。万が一の事故が発生した場合には、速やかに事故報告書を作成し、事故原因の今後の予防対策について検討し、ご家族への説明と報告を行っている。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の協力を得て、救急手当や蘇生術の研修を実施し、全ての職員が対応できるようにしている。緊急時のマニュアルを整備し、利用者の急変や事故発生時は全ての職員が対応できるように周知徹底している。	○	
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、消防署の協力を得て、利用者と共に避難訓練を行い、経路の確認、消火器の使い方などの訓練を年2回実施している。	○	
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	利用者一人一人に起こり得るリスクについて、ご家族と話し合い利用者の安全を確保しつつ、抑圧感のない自由な暮らしを支援するための事業所の工夫や取り組みを説明し、理解が得られるように努めている。	○	
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者の普段の状況を職員は把握し、少しでも食欲や顔色、様子等の変化が見られた時はバイタルチェックを行い、直ぐに管理者に報告するとともに職員間で共有し医療受診につなげている。	○	
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人が服用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、服用時は本人に手渡し服用の確認を行っている。薬の処方変更、本人の状態変化等について詳細な記録をとり、看護職員や医療機関との連携を図っている。	○	
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘がちな利用者には繊維質の多い食材や乳製品を採り入れ、おやつ、食事の工夫をしている。散歩、家事活動等、身体を動かす機会を適度に設けて、自然排泄できるよう取り組んでいる。	○	
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声かけを行い、力に応じて職員が見守ったり、介助を行い、就寝前は義歯の洗浄を行っている。口腔ケアの重要性を全ての職員が研修で理解している。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養の偏り、水分不足が起こらないように一人一人の1日の栄養摂取量等を毎日記録し職員が情報を共有している。食欲のない人には、暮らし全体を通じて食欲を促し、食器や調理の工夫をしている。	○	
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対して情報収集を行い、早期発見、早期対応に努めている。利用者及び家族に同意を頂き職員と共にインフルエンザ予防接種を受けている。ノロウイルス対策として手洗いを励行し、面会者にも手洗いをして頂くよう声かけや張り紙をして促している。	○	
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具、台所水回りの清潔、衛生を保つよう職員で取り決めて実行している。新鮮で安全な食材を使用する為、毎日買い物に出かけてなるべく買いためをしないようにしている。	○	
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りにプランターをや鉢植えを置き、季節感を出している。又、親しみやすい表札を掛け、気軽に入りやすい空間作りを実施している。	○	
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の草花を玄関やフロアに飾ったり、廊下、食堂などに季節感を採り入れた飾り付けを行い、心が安らぐ家庭的な雰囲気が出せる空間作りを工夫している。	○	
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳部屋にコタツやソファー、テレビ、雑誌を置き、自由に過ごせるスペースを作っている。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人やご家族と相談し使い慣れた物や、好みの物を持ち込んで頂き、本人が居心地良く安心して過ごせるよう工夫している。	○	
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気や温度調節、加湿器による湿度調節など、快適な環境の保持に配慮している。	○	
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関、エレベーター、廊下、居室、トイレ、浴室などに要所に手すりを設置し安全の工夫をしている。又、本人の活動性を維持する為に車椅子やシルバーカーを取り入れている。	○	
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	本人にとって「何が分からないのか」を職員で話し合っ把握し、その都度対応することで本人の不安を取り除き力を取り戻せるよう支援している。	○	
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先に花を植え、利用者が毎日楽しみながら、掃除や散歩ができる環境を作っている。	○	

. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
		○	たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

天候の良い日は、いつも散歩に出かけて下肢筋力の向上を図ると共に、季節の移り変わりを肌で感じて他者との交流ができる場面を多く作り、職員や利用者とのコミュニケーションが深まるようにしていきたい。